2017年(平成29年)
9月20日 第343号

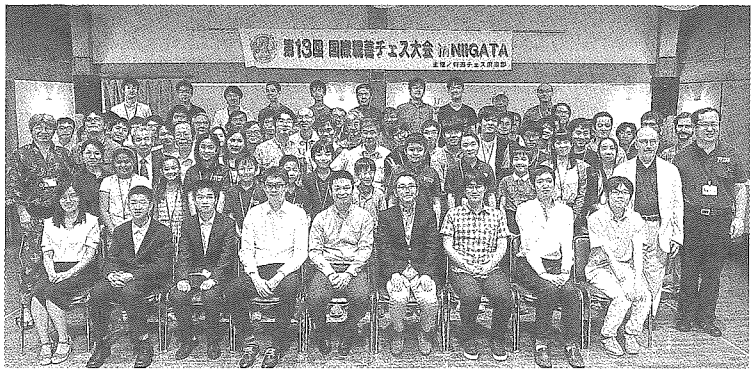
あんしん Vol.343

発行 株式会社 安藤プロパン

〒955-0095
三条市代官島川原271
TEL. 34-7656(代)
FAX. 35-6326

あんしん取材班が行く

〈新潟市〉第13回国際親善チェス大会 in 新潟 を訪ねて



▶出場全員で記念撮影

8月19日(土)に、「第13回国際親善チェス大会in新潟」が開催され、その前夜祭が、新潟市万代シルバーホテル2F のダンスィングドールで開かれるというので18日(金)お邪魔した。

声をかけて下さったのは新潟チェス倶楽部副会長の有磯昌男さん(59)。会場には全国から集まったチェス愛好家が20人程。その中には将棋プロ棋士の青嶋未来5段も同席していた。青嶋5段は22才、静岡県三島市出身。20才でプロ入りした。19日の日中親善チェス対局に将棋プロ棋士羽生善治三冠と共に出場するという。前夜祭では全く全容を掴むことが不可能であった。

▶前夜祭、中央が有磯さん

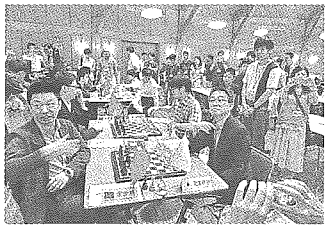
▶受付風景

新潟市清五郎の「天寿園」に向かった。駐車場には県外ナンバーの車が多く、翌19日(土)ので、チェス愛好者約百人が開場を待っていた。午前9時の受付にチェス倶楽部の メンバーがお揃いのポロシャツを着て手際よく準備を進めている。

有磯副会長の司会で開会式が始まり、チェス倶楽部会長、相沢吉久さん(56)が歓迎の挨拶。続いて来賓挨拶に地元の石崎代議士、新潟大学学長、在新潟中国総領事館の総領事が挨拶し、中国選手と日本の棋士とのトップレベル選手同士の対抗戦は、チェスによる国際交流を促す同倶楽部の取り組みに共感した前総領事が提案して2014年から始まったことを紹介した。

▶開会式、司会は有磯さん

羽生善治三冠(46)が会場に到着。プロ棋士の青嶋未来さんと共に中国代表と対局するために新潟市での出場。三年連続プロ棋士の羽生善治三冠や青嶋未来5段を新潟市に招へいするだけでも驚くが、新潟チェス倶楽部の力は計り知れないものがあると感じた。



▶羽生三冠(右)

4人ずつの総当たり戦で競技は進み、中国チェス協会へ北京市)から派遣された実力派と熱戦を繰り広げた。結果は中国が13勝2敗1引き分けで圧勝した。

チェス大会参加者は約80人で、A・B・C・Dのレベル別の対戦が繰り広げられた。会場内は静まり返っていて、皆黙もくとチェス盤に集中している。チェス大会の参加費は一般が6000円(昼食付)。高校生以下4000円(昼食付)。対局方法は準スイス式。

▶青嶋五段(中央)

新潟チェス倶楽部副会長の有磯昌男さんは、「戦国ラタック」というボードゲームを創った人として名高い。「ラタック」はナポレオン時代のフランスで生まれ軍人将棋のベースにもなったといわれるゲーム。新潟の戦国武将・上杉謙信と武田信玄による「川中島の戦い」をモチーフにした。上杉軍15枚、武田軍15枚が盤上で激突する。その有磯さんはチェス出前講座を毎月開催している。

▶対戦中(全体)

▼開催日:毎月第1、第3日曜日の午後1時～午後4時。▼場所:プルーカフェ▼住所:新潟市中央区上大川前通7番町1023ファーストサンシャイン新飯田屋ビル2F▼受講料:無料。▼TEL:025-201-7885

8月のクイズ

Q. □にあてはまる数字を入れて下さい。

```
 □ □ 3 □
-1 9 □ 5
 4 4 4 4
```

A. 341

▼佐藤真さん ▼連さん ▼関根イコさん ▼田辺タ

…正解者選択

・クイズはいつもの通り1日まで。

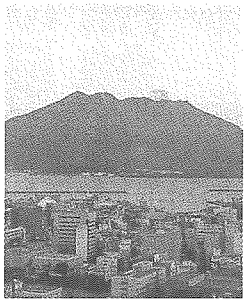
…当選者発表は11月10日

「西郷どん」の鹿児島と霧島ちゃんぽんの関係

社長！ 安藤幸広

2017年9月12日、仕事の出張で鹿児島に来ている。台風18号の影響も心配であるが。約2年前から鹿児島市を起点に鹿児島県鹿屋市と宮崎県都城市の工場を訪問するようになり、今回で7回目かと思う？。宿泊地は鹿児島市内のホテルと決めているが、最近目立つのは街のあちらこちらにはのぼり旗が自立つ。のぼり旗には「明治維新150周年」というデザインされた文字が書いてある。そうか来年2018年は明治維新1508周年にあたるのか。それを記念して2018年1月から放映されるNHK大河ドラマは「西郷どん」になっており、維新の街、薩摩、鹿児島は活気が出てきたように感じられる。そこで西郷隆盛に少し触れてみたい。

誰しもが思い描く西郷隆盛の風貌は短髪で太い眉と大きな目だろうか？。目にする西郷どんの銅像はみな同じイメージである。司馬遼太郎が書いた様々な記述によれば、西郷隆盛は1827年12月28日（文政10年）に貧しい下級武士の住まいが多くある下加治屋町の西郷家に生まれる（今のJR鹿児島中央駅周辺）。幼少から学問に励み、やがて維新を進めるリーダーの一人と成長して行ったとある。そしてその活躍には西郷の才能を早くに見出し世に送り出した主島津斉彬（シマズナリアキラ）がいた。「国が豊かになり人々の暮らしが満ち足りていれば国は自然とまとまる」と考えた島津斉彬は黒船来航のかなり前から鹿児島市内に殖産興業のため蒸気船製造設備の稼動と同時に製鉄所の開業・大砲を製造するための反射炉の設置・小銃の製造・西洋式製塩所の開設・ガラスの製造（薩摩切子など）・紡績業開設・電信機の設置・汽車の研究など一大工場群を開設して行く。そして出来た製品は輸出するなどして貿易を行って外貨（金銀）を稼いで行った。後の明治維新政府にもこの殖産興業の考え方は引き継がれて行く。しかし言うまでもなく貿易で得たこの潤沢な金銀が財源となり倒幕活動費や明治維新政府設立や運営の財源となった事は言うまでもない。この貿易で稼いだ外貨がなければ今も古いままの日本であったかもしれないのだ。そして西郷が生まれた下加治屋町地区は極めて特異な場所となったと司馬遼太郎は更に記述している。「この狭い一角から巣立ったのは実は西郷隆盛ひとりではない。年長者が年少者を教育する薩摩の郷中教育により大久保利通や東郷平八郎といった英傑たちを多数輩出し明治維新から日露戦争までをこの一町内でやったようなものである」と記していた。



▲桜島

鹿児島市内からの一望でいつも変わらず桜島がでんと構えている。時々は噴煙を上げて風向きによっては降灰してほとんどの物がざらざらとしている時もある。特に真夏の櫻島噴火と降灰は洗濯物が外に干せずほとほと閉口するようだ。更に鹿児島の食と言えば、気づいてみれば「黒」が主流であった。薩摩黒牛・黒豚・黒さつま鳥・黒糖・黒酢・黒麹など。また桜島を望む鹿児島湾内にはブリ・寒パチ・うなぎ・車えび・黒鯛・黒マグロなど養殖筏（いかだ）も多数目立つ。養殖栽培漁業がとても盛んなのである。最近飲むようになった本格薩摩焼酎「黒霧島」は芋焼酎のほんのり甘い食感なのに糖分ゼロという。鹿児島県は実は食の宝庫であった。

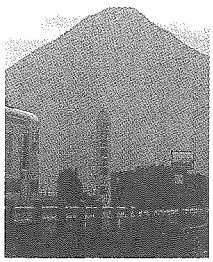
今回は鹿児島空港から高速道路に乗り一路、宮崎県都城市に向かう。今日は都城にある工場に午後訪問する事になっていた。昼飯は途中の霧島SAの「霧島ちゃんぽん」を食べようと決めていた。霧島高原周辺で採れる新鮮な野菜たっぷり使ったちゃんぽんというポスターが大々的にあり前からそれ気になっていた。「ちゃんぽん」はそもそも長崎が発祥であり長崎グルメを代表する絶対王者である。過去にも本場長崎で「ちゃんぽん」は食べているが、あえて霧島ちゃんぽんとして挑戦的なポスターを作って張ってあったから「ちゃんぽん」を紐解くと、明治中期福建省から一旗上げようと長崎に渡り旅館とレストランを併設した「四海楼」を開業した初代オーナーの陳平順氏であると言う。福建省で普通に食べられていた湯肉スープの支那うどんを長崎で手に入る材料でアレンジし提供したのが始まりで、福建省のあいさつ言葉で「ご飯食べましたか？」が「しゃんぽん」に長崎ちゃんぽんが「ちゃんぽん」に語源由来となっている。豚骨と鶏ガラスープで多少それがベースであるキャベツ・紅白のみじん切りと長崎はもやしと長崎なんぺん、ぴぺろんが入る。陳氏は柱なんぺんどが入る。陳氏は開業後の長崎人仲間に近隣の料理人

▲ちゃんぽんポスター

にちゃんぽんの作り方も伝授して行った。今日でも長崎ちゃんぽんは長崎代表グルメとなっている。霧島ちゃんぽんとも名する意味がすぐ理解できた。野菜の種類も多く、また野菜がとても美味しいのである。大満足であった。

西郷隆盛の続きは皆様で更に調べて頂きたいと思います。「西郷どん」のNHK大河ドラマも大変楽しみではありますが、機会を作り薩摩の時代の鹿児島をじっくりと観光されて、薩摩・明治維新の歴史・薩摩・料理・櫻島・開門岳・特攻隊記念館など鹿児島を十分に堪能していただけたら幸いと願う次第です。

へ次回に続く〉



▲開門岳

▲鹿児島市ロゴマーク